（　湧心館高等学校　全日制　）学校　平成２７年度学校評価表

１ 学校教育目標

（１）確かな学力を育成し、個に応じた進路指導を行う
（２）豊かな情操と道徳心を培う
（３）心身の健康を自己管理する態度を養う

２ 本年度の重点目標

【確かな学力・個に応じた進路指導】
（１）アクティブ・ラーニングを推進し、思考力、判断力、表現力を育む。
（２）生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細やかな支援を行う。
（３）望ましい勤労観・職業観を育成し、自己実現を図る態度を育む。
【豊かな情操と道徳心】
（１）命を大切にする心を育み、自他の大切さを認める態度を養う。
（２）規範意識を身につけ、善悪を判断し自らを律する力を培う。
（３）わが国の伝統と文化を尊重する態度とグローバルな視点を育む。
【心身の健康】
（１）望ましい食習慣と生活習慣を身につけさせる。
（２）運動に親しむ態度を育成し体力を向上させる。
（３）健全な情報モラル教育を推進する。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	三課程（全定通）運営と学校経営の整合性を図る	本校のｽｸｰﾙｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨが三課程で共有化されているか。課程間の情報交換が継続的に図られているか。より良く改善が進められているか。	教務・進路・生徒指導部の情報の共有化と連携の強化を図る。三課程での研修の充実。	三課程教頭会を定期的に実施する。３課程年間研修計画を作成する。	A	三課程教頭会の定期的実施の他、関係のある分掌部間でも、必要に応じて、情報交換を行うことができた。また、三課程合同の研修も、内容、方法を改善しつつ計画どおりに進めることができた。
	適応指導の充実	学年及び学校全体として具体的な取組が進められているか。	新入生への年間を通した適応指導の充実。年間の転学・転籍・退学者数３０名以内。	適応指導委員会といじめ防止対策等モデルカリキュラム開発チームとの連携を図る。	B	１月末現在の転・退学者数は前年同期の数を下回っており、目標到達まであと一歩のところにある。今後は適応指導委員会が実施する各種意識調査を十分に活用した適応指導の充実が求められる。
	開かれた学校作り	広報活動を効果的に実施しているか。	積極的な情報発信に努め、「地域に開かれた学校作りに努めている」９０％以上を目指す。	湧高便り（学校広報誌）年２回、湧水（学年広報誌）を毎月配布する。体験入学や中学校説明会を充実する。年３回の中学校訪問を充実する。学校ＨＰを定期的に更新する。	B	広報活動については、生徒の活動をまとめた広報映像の制作や学校行事のＨＰ掲載等、各分掌部で工夫を加えながら実施することができた。しかし、まだ家庭や地域からの反響を感じられるところまでは達しておらず、より積極的かつ効果的な情報発信が必要である。

		地域社会に貢献する態度が育っているか。	学校周辺及び地域の清掃活動を行う。	学校全体で計画的に取り組む。育友会、生徒会と連携する。	C	保健委員会、部活動単位で地域清掃に取り組むことはできた。その他、生徒会や有志で地域の夏祭りボランティアにも参加した。育友会、生徒会の連携については、日程を調整し連携して活動できるようにする必要がある。
学力向上	アクティブ・ラーニング推進のための指導方法の工夫と改善	アクティブ・ラーニング型の授業の展開が図られているか。	アクティブ・ラーニング型授業の展開を意識して実践する職員の割合８０％以上を目指す。	校外で実施されるアクティブ・ラーニング研修への職員参加及び参加職員による復講研修を実施する。	A	対話や発表など、アクティブ・ラーニングを意識した実践を行った職員の割合は９割を超えている。今後は、次のステップとして討論やプレゼンテーションなど多様な学習活動に取り組むことが求められる。
		思考力・判断力・表現力が育まれているか。	生徒が自ら考えたり、表現したりする活動割合の向上。	教科の枠を越えて職員同士が互いに学ぶことのできる授業参観を促進する。	B	アクティブ・ラーニング型授業やグループワークを取り入れたＬＨＲの取組によって、生徒が考え、表現する活動の割合が着実に増加した。
	豊かな心を育てる教育の推進	各教科で「命を大切にする心を育む指導」がなされているか。	授業及び学校行事等の場面で、生徒が生き生きとした活動ができる。	生徒の現状把握のため適応指導委員会により現状把握と改善を行う。	B	各種行事において、それぞれの学年が自分たちの役割を自覚して活動することができた。また、修学旅行では、旅行の目的を踏まえた自覚的行動をとることができた。今後は、各教科の授業での取組推進が求められる。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の推進	望ましい勤労観・職業観が育成されているか。	進路講話・職場見学・企業人との交流を通して、具体的イメージを持った職業観を形成する。	職業安定所等の外部機関が主催する事業の積極的な活用、キャリア意識を育てる新規の取組（キャリア別終礼等）を実施する。	B	３学年においては、外部機関と連携した進路ガイダンスの実施、職場見学、オープンキャンパスなどへの参加促進により、ほとんどの生徒の就職、進学の早期決定が実現した。また、進路学習の内容を生徒に合ったものに改訂することで、職業についての具体的なイメージを持たせることができた。
			インターンシップを通して、働くことの意味や意義を考え、望ましい勤労観を形成する。	マナー講座等の事前指導、事業所との事前の打合せや礼状の送付等を含め、活動全体で大きな学びが得られるようにする。	B	インターンシップを充実する取組として、進路希望調査の工夫やマナー講習との連動化を図った。実施上の課題も多く残ったが、進路実現に向けた取組としては成果をあげることができた。

	進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進が進路目標の達成につながっているか。	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標の早期設定を促す。	二者面談・三者面談・進路部面談等を計画的に実施するとともに、各種調査結果などを活用して生徒の自己理解に生かす。	B	二者面談、三者面談、キャリアサポーター面談の充実や、夏休み就職課外の取組の強化等により、進路目標の早期設定ができ、３年生進路の早期内定率が高まった。しかし、１・２年生の進路目標設定に向けた取組については、より計画的に実施していく必要がある。
			基礎的な学力の向上を図るとともに進路情報の提供と進路別学習機会の充実に努め、進路選択の幅を広げる。	学びなおし教材（マナトレ）を１年生の授業で活用する。模試・進路のしおり・進路情報誌・進路ガイダンスなどの活用を進める。キャリア別終礼・進路検討会等を定着させる。	C	１年生で採用した学び直し教材は、基礎基本の定着、授業を落ち着いた雰囲気で始めるためのツールとして活用できた。進路情報の提供については、「進路のしおり」の配布が遅れたことの他、キャリアコース別終礼等の意味や意義の確認と共有化に課題があった。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒が健全に社会に適応できる生活をしているか。	自主的に健全な整容を心掛けられるような指導の実現。	学年間の指導内容に差が生まれないよう、整容検査内容のマニュアルの活用を行う。検査結果を共有化するために文書セキュアを活用してデータ管理を行う。	B	自主的に健全な整容を心がける生徒の割合を増やすことができた。今後、この状況を維持、向上させるための取組を検討する必要がある。
	理性的態度と道徳的実践力の育成	規範意識の高揚、友愛・連帯の精神を養おうとしているか。	学級や委員会活動・部活動など集団生活の中での責任と人間形成の指導。	委員会活動を定期的に実施することで活発化を図る。生徒会を中心とした地域貢献活動を検討し、実施する。	B	集団生活における様々な指導を通して、規範意識の内面化、連帯する意識の向上が見られた。今後は、部活動、学校行事の更なる活性化を通してこの流れを一層進める必要がある。
	自他を尊重し、互いに協力する態度や遵法精神の育成	生徒同士が互いを尊重し、協調しながら生活することができているか。	非行事例の減少といじめ件数０を目指す。	ＳＮＳを中心に、情報モラル、情報マナーについての指導を継続的に行う。早期にいじめを認知できるよう機会あるごとに声かけ指導を行う。	C	いじめの発生件数は０にはならなかったが、いじめに対する生徒の感覚はこれまで以上に高まりを見せている。まだＳＮＳ等の互いの顔の見えないコミュニケーションに課題が見られるので、より効果的な取組方法を検討し、採用する必要がある。

	交通安全意識の確立、交通法規の理解と交通マナーの向上	交通事故・違反が減少したか。無施錠自転車が減少したか。	事故違反件数を減少させ、安全運転意識の向上を図る。二重ロック１００％。	交通安全教育の自校実施と交通委員会の活動の充実を図る。二重ロック及び無許可自転車指導を徹底する。	B	交通安全教室に工夫改善を施したが、交通事故の減少に直接的には結びついていない。また、二重ロック１００％についても、達成できていない。今後は、より具体的で実際の交通環境に即した指導が求められる。
人権教育の推進	研修の充実と職員の人権意識の高揚	教育の根幹に人権尊重を捉え、すべての教育活動において人権教育の推進ができているか。	教職員が人権尊重の理念を理解し、全ての教育活動において推進できる研修や体制づくり。	計画的な研修参加を通して、人権課題についての認識を深めるとともに実践の振り返りを行う。	B	研修の計画的な実施と職員間の活発な意見交流を通して、人権意識の高揚を図ることができた。今後は、校外研修等で得ることのできた最新の情報を全職員で共有する工夫が必要である。
	人権の重要課題の学習	人権課題を自分の問題として考える学習になっているか。	これまでの積み上げに留意しつつ改訂をすすめ、直近の話題を盛り込んだものにする。	係（推進委員、学年の係）だけではない、当該学年の職員等が共有しうる指導案を作成する。	B	人権教育ＬＨＲは、事前に学年会で検討し、その目的、内容、方法について学年全体で共有しながら取り組むことができた。また、学習にグループ活動を導入することで、生徒が主体的に考え、互いに意見を交換する姿が見られた。
いじめの防止等	いじめ防止等対策モデルプログラム研究の推進	本プログラムの推進を通して、生徒の自尊感情、コミュニケーション能力、生徒同士の肯定的な関わりを育てることができたか。	本プログラム研究で実施するアンケートの５つの項目（生徒の自己有用感、集団効力感等）の数値を着実に向上させる。	本プログラム研究の推進と併せ、職員及び組織が成長する「学習する組織」づくりを行う。教育センター等の外部資源を活用する。	B	全５回の授業でアンケートを実施したが、全ての項目数値の向上には至らなかった。しかし、５項目間のバランスは取れるようになっており、特に自己有用感、集団効力感の数値は着実に向上している。
	いじめ防止対策委員会を核とした職員間の連携	学級・学年・各部署・各段階における連携が成されているか。	いじめ防止対策委員会での連携を密にし、情報の共有を行い未然防止を図る。	いじめ問題への対応マニュアルの職員への周知を図り、全職員で共通理解と防止に取り組む。	B	いじめ対策に係る職員研修を複数回実施することで、いじめの未然防止からいじめによる重大事態発生時の対応まで、幅広い範囲で職員の共通理解を図ることができた。今後は、いじめ防止に係る各分掌部の具体的な連携を図る必要がある。
教育課程	単位制の特徴を生かした教育課程の検討	生徒の進路目標達成のためのカリキュラム編成を十分支援できているか。	生徒一人一人の特性や進路目標を踏まえながら、生徒が納得できる時間割を作成できるようにする。	具体的なカリキュラム編成例を記したcompassを活用したカリキュラムガイダンス（説明会）の実施及び個人面談による相談を充実する。	B	カリキュラム編成については、生徒がじっくり考え、納得できるよう支援することができた。今後は、育てたい生徒像と生徒の求める将来の自分像をどう結ぶかについて検討する必要がある。

		社会の変化、進路の多様化等に対応するカリキュラムを広く検討できたか。	大学入試、教育課程等の教育改革に対応するカリキュラムの基本的な枠組みを作成する。	教育改革の動向、カリキュラム開発に関する先導的実践の研究と平成28年度カリキュラムの検討を行う。	C	次年度カリキュラム編成については、教育の動向を踏まえた十分な検討を行うことができなかった。今後は、社会が求める基礎的・基本的な能力について、カリキュラムと関連させながら研究する必要がある。

４　学校関係者評価

（１）生徒のカリキュラム編成について、その支援のための方策として１年生の２者面談等を充実し、より進路目標と関連させた形でカリキュラム編成ができるようにして欲しい。
（２）アクティブ・ラーニングの推進については、教師側の発問、個性に応じた指導等、さらに工夫を加えながら実践をお願いしたい。
（３）教職員と保護者の関係がより良く変わっていけば、強力な生徒の応援団となれる。今後このような関係性の構築に向けて保護者、学校が互いに努力していく必要がある。

５　総合評価

（１）設定目標の達成に至らない項目があるが、全般的には本校の取組が着実に成果を導きだしていると評価できる。
（２）取組の成果が表れつつある項目として、アクティブ・ラーニングの取組が挙げられるが、この取組が生徒同士の人間関係、教室の支持的風土の醸成にも好影響を与えている。
（３）前年度と比べ問題行動の発生件数が半減しており、学校生活への適応や規範意識の高揚が着実に進んでいると評価できる。
（４）生徒の進路目標の達成は、昨年から状況が大きく改善したが、昨年度から取り組んでいる３年間を見通したキャリア教育の成果と捉えられる。
（５）広報活動については、ＨＰの活用、充実を図ったが、まだ地域や保護者にそれらの広報が浸透しているとは言えない状況である。

６　次年度への課題・改善方策

（１）学校評価アンケートの生徒の肯定的回答７０％以上を目指していく。また生徒、保護者と教師の間で評価に開きがある項目について改善を図る。
（２）単位制の良さを発揮できるカリキュラム編成を構築するために、これからの社会、地域が本校に求めるニーズを探り、そのニーズにこたえるためのカリキュラムをマネジメントする研究を行う。
（３）アクティブ・ラーニングの一層の推進を図るために、公開授業週間のさらなる活性化や外部講師の招聘、校外研修への積極的な参加を推進する。
（４）一部の生徒に基本的な生活習慣の未定着や自己指導能力の弱さが見られる状況に対して、保護者と学校の連携や各分掌部間の協力した取組を進めながら学校教育全体でその改善に取り組む。
（５）地域や保護者が本校の教育活動にあまり関心を持てない状況に対して、ＨＰを活用した情報発信に一層力を入れるとともに、保護者と連携したボランティア活動、地域を舞台とした教育活動の展開を進める。